

パラマウント通信 mini

2022年11月26日 土曜日

パラカヌー競技版

次世代選手発掘プログラム会場配布号

日本パラカヌー選手権大会 木場潟カヌー競技場



国内最高峰の公式大会

9月9日（金）石川県小松市の木場潟カヌー競技場において、日本パラカヌー選手権大会が開催されました。パラカヌーの国内公式大会は、日本最高峰のこの大会と海外派遣選手選考会（3月）の年2回。全国からの選手エントリーはのべ23名。TOKYO2020パラリンピック出場選手だけでなく、今回が初出場の選手も、レースに挑みました。

中でも8月の世界選手権（カナダ）に出場した加藤隆典選手ははじめ各選手たちは、今大会がベストではないもののごたえを感じたようです。特に加治良美選手は、世界選手権の準決勝において、0.2秒差でA決勝進出ならずという肉薄するレースを行った体験から、現在は故障を抱える中ではあるものの、今できる範囲のベストだと語ってくれました。



宮嶋志帆選手は、昨年と今年の世界選手権で、A決勝のレースを経験。特に今年8月に出した自己ベストに次ぐタイムが出て、大きな自信に繋がったそう。メディアからの取材も受け、少し緊張しつつも、その緊張感を楽しんでいるようでもありました。



また、8月の育成合宿を経験した菅谷彰宏・我妻進之・朝日省一の3選手は、来年3月の海外派遣選手選考会に向けての課題を見つけた様子。昨年10月よりカヤックからヴァーに転向した高木裕太選手の姿や、2010年のパラカヌー日本代表第1号の小山真選手の姿も。小山選手は、拠点で一緒に練習する後輩たちに、まだまだ負けないぞ、という気迫のレースで1位を獲得。今大会が初エントリーの選手は、200mを完漕することが目標だと最後まで挑み、達成感を味わっていました。



今回残念ながら、昨年手術をした手首が復調せず棄権した瀬立モニカ選手や、前日練習中の足の怪我により急きょ棄権となった今井航一選手。彼らの早期回復を願い、来年3月の海外派遣選手選考会（府中湖）での代表権獲得を目指して、実力を存分に発揮されることを期待します。

パラカヌーでは選手の艇を運び、乗降艇をサポートするスタッフの手が必要です。今大会は、夏休み明けの平日の開催ということもあり、サポートスタッフ不足が懸念されましたが、日本カヌー連盟、石川県カヌー協会等の協力も得て、無事に大会を終えることが出来ました。



車椅子でも義足でも 壇上での笑顔の表彰式

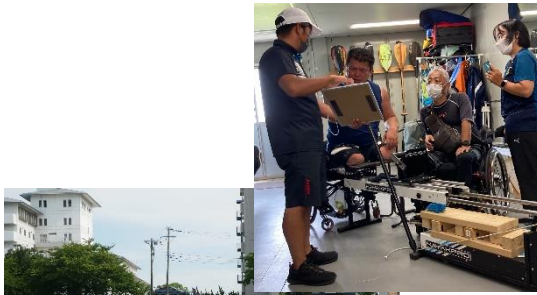
レースが終わった後の表彰式では、スタッフがサポートしたり3~4人で車椅子を抱えたりして、選手たちは表彰台に上がりました。その様子を見ていた高木選手は「え、自分たちも表彰台に上がれるの？」と嬉しそう。日本障害者カヌー協会・丹野浩之会長や日本カヌー連盟の理事から表彰状とメダルを受け取った壇上の選手たちは、いつもに増して誇らしげに見えました。



健常の選手にとっては表彰台に上がるのは当たり前のことですが、パラの選手にとっては、表彰台というイメージはあまりないものです。3年前の日本選手権や2021年パラリンピックが行われた海の森水上競技場でも、表彰台の用意はありませんでした。各競技場の表彰台が義足や車椅子利用の選手でも上がることのできるスロープ付きになれば、健常・障害関係なく皆が壇上に上がれます。パラの選手たちも自分の力で壇上に上がったなら、その喜びはもっと大きく感じられるでしょう。いつかユニバーサルな表彰台が各地に行き渡ることを願っています。

8月茨城県土浦市にて 育成合宿を行いました

今年度、育成選手に認定された4選手のうち、菅谷・我妻・朝日3選手の合宿が、8月13日14日茨城県土浦市にて行われました。普段は、それぞれの拠点で独自に練習を重ねていましたが、今回土浦に集合し、今期就任した日本代表監督の柁木駿（はしき すぐる）氏の指導を受けました。エルゴでのパドル操作を何度も確認。その後、水上に出て、救助艇で並走する監督から、都度、パドルの水面への入れ方や、返し方を徹底的に教わります。今まで自分たちがやって身に着けていたパドル操作から大きく変更することは、頭では理解しつつもなかなか実践に追いつかないもの。何度も繰り返しパドルを操作し、体で覚えていくしかないようです。「こんなに分かり易く指導してもらったのは初めてだ」「次の大会に向け、学んだことを忘れないように練習を積みみたい」と3人の選手たちは話していました。



土浦を拠点にしている強化指定選手の宮嶋選手も育成選手たちと合流して練習し、こちらも手ごたえをつかんだ様子。機会があれば監督にもっと指導を仰ぎたいと思ったようです。

また、今回の合宿に先立ち、12日にはインテグリティ研修（講師：日本車いすカーリング協会 金子さん）と栄養指導（株式会社 LEOC 公認スポーツ栄養士 関根さん）を受け、選手としての心がまえと、食にも気を遣う大切さを学びました。

パラカヌー体験会 & パラカヌーサポーター講習会

詳細とお申し込みは・・・ <https://www.japan-paracha.org/> をご確認ください

一般社団法人日本障害者カヌー協会主催
国庫補助金民間スポーツ振興費等補助金事業

パラカヌーサポーター講習会

【九州富士しゃくなげ湖レガッタ会場】

2022年12月17日(土)

場所：九州富士しゃくなげ湖レガッタ
住所：佐賀市宮土町畑瀬
座学：新設会議室
実技：しゃくなげ湖レガッタ
受講定員：30名

サポーター講習会終了後
パラカヌースタッフとして登録できます。
(入会必須)

受講対象者：パラカヌー競技やパラカヌーサポートに興味がある方。
※資格は問いませんが、受講後のスタッフ登録には協会の会員登録が必要です。

受講料 3,000円（教材費登録費含む）

申し込み先：WEBフォームから簡単申し込み
<https://forms.gle/mfhmSN9Mr17WWSvX9>
締め切り 12月5日(月)

しゃくなげ湖のクリーンアップも実施します。
このイベントは持続可能な社会を目指すために、サステナビリティ活動も取り入れています。

2022年12月17日(土) 9:00～受付開始
午前：障害特性について概要
パラカヌー競技の対象障害について
インテグリティ研修会
ワークショップの説明と準備
午後：ワークショップ（体験乗艇）
カヌーDEクリーンアップ
15:30終了予定

【主催】
一般社団法人日本障害者カヌー協会
東京地区本部 1-2-2 日本財団ビル4F
03-5722-2490
0311@japanparacanoe.org

協力：佐賀県カヌー協会
協賛：株式会社GPO-756

12月に佐賀県で 開講予定

パラカヌーサポーター講習会

パラカヌーに興味のある人、パラスポーツについてもっと知りたい人、パラカヌーのサポートをしてみたい人

カヌー未経験でも、ボランティアの経験が無くても、パラスポーツに関わるのが初めてでも構いません

障害ってなんだろう？誰もカヌーに乗って一緒に楽しむにはどうしたらいい？ぜひ私たちと一緒に考えてみませんか？

佐賀県内初のサポーター講習会は、2024年佐賀国体のカヌー会場となる富士しゃくなげ湖レガッタで行います。

締め切りは12月5日(月)です

1月と2月に開催予定

競技トライアルプログラム

東京都パラスポーツ次世代選手発掘プログラムのパラカヌー競技トライアルプログラム

- ① 1月22日(日) 10時～12時
- ② 2月5日(日) 13時～15時

東京都多摩障害者スポーツセンター（東京都国立市）の室内プールにて、2回のトライアルプログラムを予定しています。

カヌーに乗るのが初めてでも大丈夫！スタッフがお手伝いをいたします。

詳細は後日、次世代選手発掘プログラム事務局からのお知らせと、協会の公式サイトで発表します。

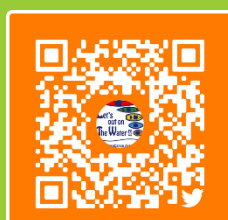
パラカヌー競技や、体験会・講習会のスケジュールなど

パラカヌー情報 SNSで発信中！ フォローしてパラカヌーを一応援しよう！



Facebook

<https://www.facebook.com/JAPANPARACANOE.A>



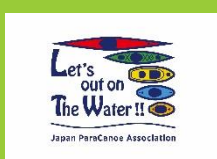
Official Twitter

@japan_paracanoe



Official Instagram

https://www.instagram.com/jpara_canoe/



一般社団法人 日本障害者カヌー協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 4F